

下諏訪町 スポーツ推進計画

「生涯一町民一スポーツ」で生涯スポーツ社会の実現



平成25年4月

下諏訪町教育委員会

「誰もが健康で
安心して安全に暮らせるまちづくり」



「健康で長生きをする」これは誰もが願うことであります。下諏訪町は、高齢化率が高く、多くの高齢者が健康で元気に生活していただいております。そうしたなか、地域の高齢者が、より一層健康で生きがいをもち、地域で活躍できるまちづくりが大変重要となっています。

また、車社会や都市化の進展にともない、体を動かす機会の減少や人間関係の希薄化などが問題となっており、日々の生活で大切なものが失われているように思われます。

しかし、そのような社会環境のなかでも、当町における運動・スポーツの実施率は大変高く、スポーツ文化が根付いております。また下諏訪町は自然豊かな環境に恵まれ、諏訪湖でのボートをはじめとする多くのスポーツが「下諏訪町の宝」ともなっています。

この計画は「生涯一町民一スポーツ」を基本理念とし、スポーツを通じて、より生活を充実させ、地域に根ざした生涯スポーツ社会の実現をテーマに策定を行いました。

スポーツ推進計画を策定するにあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました町民の皆様をはじめ、答申をいただきました審議会の委員の皆様、心から感謝を申し上げますとともに、この計画をもとにスポーツ推進のための具体的施策を着実かつ的確に実行し、町民の皆様が健康で生きがいをもった生活が送れるよう全力で取り組んでまいります。

町民の皆様の積極的な参画と、格別なご理解ご協力をお願いいたします。

平成25年4月

下諏訪町長 青木 悟

目 次

第1章 基本的な考え方 1

スポーツ基本法、計画策定の趣旨
計画の性格（位置付け）
計画期間
計画の構成

第2章 基本理念 2

下諏訪町の現状
基本理念

第3章 基本目標と施策の展開 3

基本目標1 学校と地域における子どもの運動・スポーツ機会の充実 3
基本目標2 町民の運動・スポーツ参加機会の充実や環境の整備 10
基本目標3 運動・スポーツ施策による豊かな高齢社会の実現 15
基本目標4 多方面にわたるスポーツの果たす役割の活用 19

第4章 推進体制の整備 21

町民の理解と協力による推進 21
計画の検証・評価 22

第5章 体系表 23

資料編 24

計画策定の日程 24
審議会委員名簿 25

第1章 基本的な考え方

■スポーツ基本法、計画策定の趣旨

スポーツを行うことで人々の心身の健康をもたらすこと、人と人との交流が促進することで地域コミュニティの活性化につながることで、スポーツツーリズムが起こることで地域の経済が活性化することなどスポーツは多くの可能性を秘めている。

平成23年度に「スポーツ振興法(昭和36年法律141号)」が全部改正され、スポーツ基本法が公布された。基本法では「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利である」と明記し、新しい時代におけるスポーツの基本理念を提示した。

スポーツ基本法が公布されたこの機に下諏訪町スポーツ推進計画を策定し、町民が豊かで健康的な生活を営む上でスポーツが大変重要なものととらえ、スポーツの力で町の活性化に努めていく。

■計画の性格(位置付け)

下諏訪町総合計画第3章第4項における体育・スポーツに関する部門計画として位置付け、今後のスポーツ推進のために必要な具体的施策の推進計画とする。

■計画期間

平成25年度(2013年度)を初年度とし、平成29年度(2017年度)を目標年度とする5年間を対象とする。

なお、計画期間内であっても、新たに計画に盛り込むべき事項が生じた場合は、必要に応じて計画を見直す。

■計画の構成

第1章：スポーツ基本法、計画策定の趣旨、計画の性格、計画期間、計画の構成

第2章：下諏訪町の現状、基本理念

第3章：基本目標に対する現状・課題、施策の展開、5年後の目指す姿

第4章：推進体制の整備、計画の検証・評価

第5章：体系表

第2章 基本理念

■下諏訪町の現状

平成24年9月に実施した町民アンケート(20歳以上対象)によると、50%以上の町民が週1回以上運動・スポーツに取り組んでいることがわかった。なかでも、高齢者の運動・スポーツ実施率は70%に近く、健康に対する意識が高いことがうかがえる。

しかし、社会状況の変化(少子化でスポーツクラブが減少する、テレビゲームをするなど外で遊ばなくなる)にともない、子どもの体力低下が全国的な問題となっている。平成23年に実施した体力測定においては、町の小中学生の平均的な体力は、全国平均より低い傾向を示しており、早急な対応が求められる。

また、スポーツ合宿の利用者は減少傾向にあり、多いときは学生が夏季合宿に約1万人訪れ「合宿のまち」と呼ばれていたが、現在では2千人程度に落ち込んでいる。

■基本理念

町民の体力向上、健康志向、生きがいづくりの場として、地域に根ざしたスポーツの普及を行い、町民のニーズに対応した生涯スポーツ社会を実現するために基本理念を次のように定める。

生涯一町民一スポーツ

第3章 基本目標と施策の展開

基本目標1

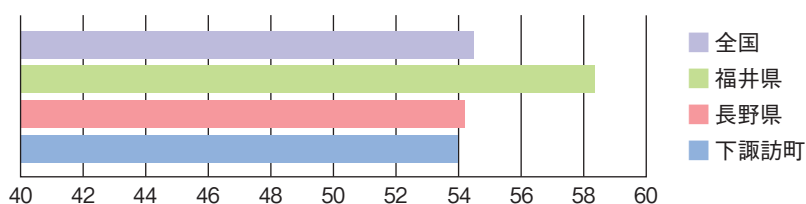
学校と地域における子どもの運動・スポーツ機会の充実

1 子どもの体力向上施策の推進

現状・課題

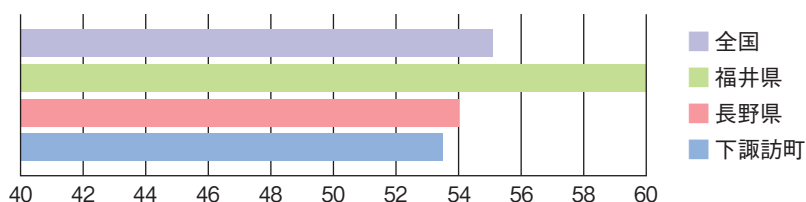
- 小中学校の体力測定※1の結果ではD・Eランクが全体の4分の1を占めている。特徴としては1種目だけ突出して高い種目があるが、他の種目は低いなどの偏りが見られる。また、全体的に反復横跳び、50メートル走などの敏しょう性種目が低い。(本計画の体力測定データは、平成23年度に実施した小学校5年生と中学校2年生が対象となっている。欠席やけがなどで、行わなかった種目がある児童や生徒のデータは含まれないので、全児童及び生徒が対象ではない。また、体力測定は努力義務のため行っていない学年もある。)

体力合計点 小学校5年男子



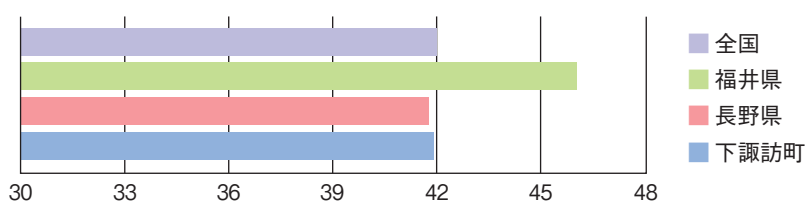
体力合計点 小学校5年男子	
全国	54.46
福井県	58.30
長野県	54.15
下諏訪町	53.95

体力合計点 小学校5年女子



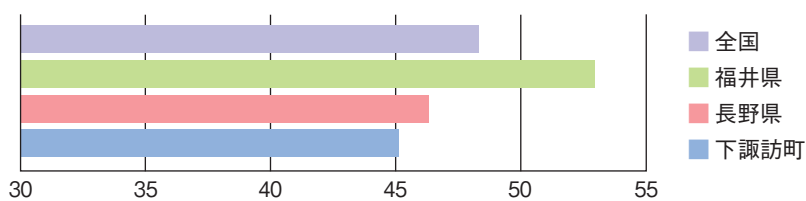
体力合計点 小学校5年女子	
全国	55.09
福井県	59.96
長野県	54.04
下諏訪町	53.52

体力合計点 中学校2年男子



体力合計点 中学校2年男子	
全国	41.91
福井県	45.94
長野県	41.68
下諏訪町	41.89

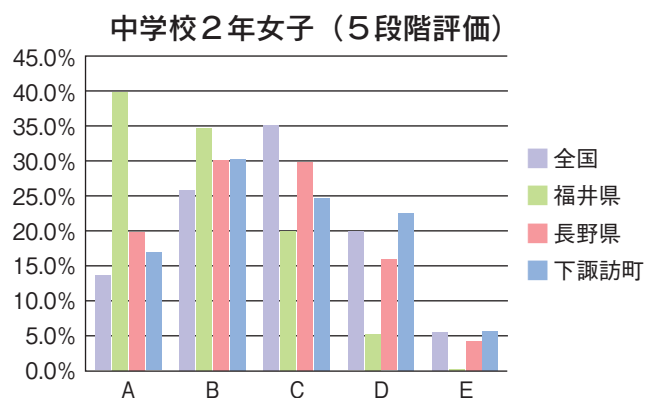
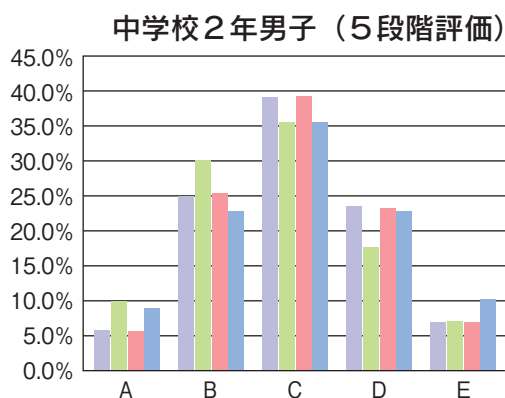
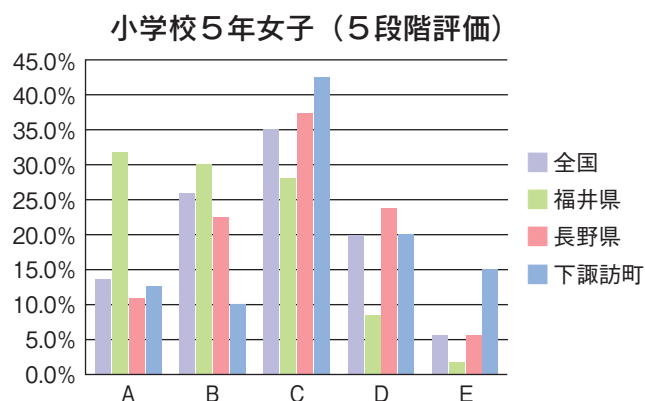
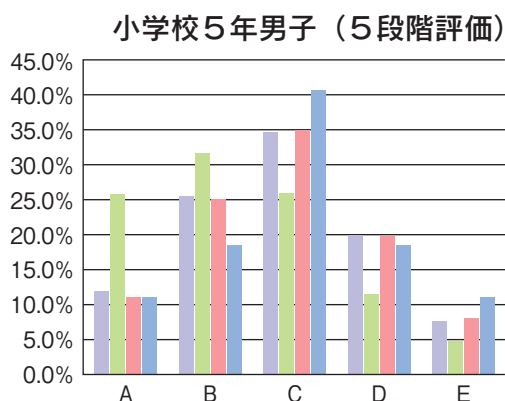
体力合計点 中学校2年女子



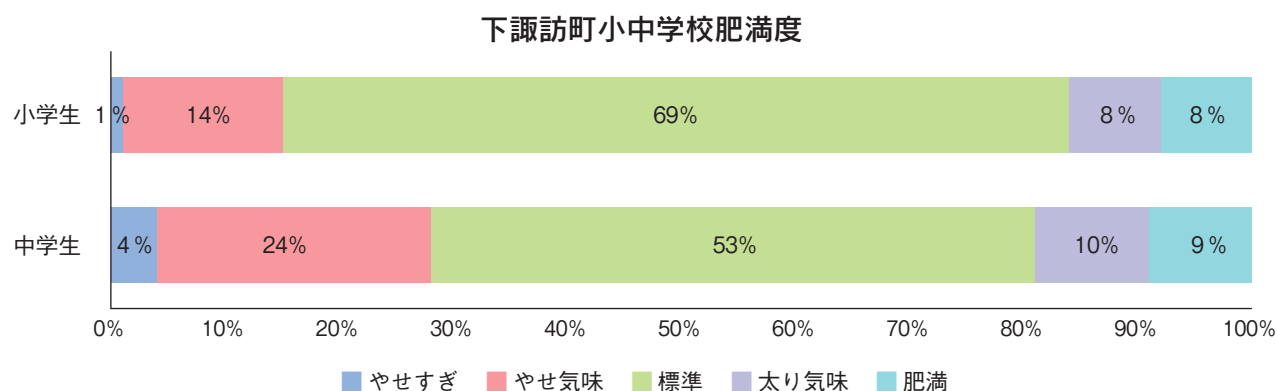
体力合計点 中学校2年女子	
全国	48.28
福井県	52.99
長野県	46.34
下諏訪町	45.08

※1 体力測定は握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、持久走、50メートル走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの8種目を実施する。各種目の得点(10点)を合計し、総合得点(80点)でA～Eの5段階評価を行う。A評価が一番高くE評価が一番低い。
また、グラフに福井県が掲載されているのは、全国1位の都道府県であるため。

※グラフの回答の構成比は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない。



- 運動・スポーツをする子どもと、しない子どもの二極化が見られ、中学生の女子※2において、その傾向が強く見られる。
- 小中学校の身体測定では、やせすぎや太りすぎの児童や生徒が見られる。
 やせすぎの要因：身体的理由、食生活、アイドル文化※3の影響など
 太りすぎの要因：運動不足、食生活、生活習慣など
- 子どもの運動嫌いをなくすために考案された運動プログラム※4は、町内の保育園、子育てふれあいセンターぽけっとで行っている。

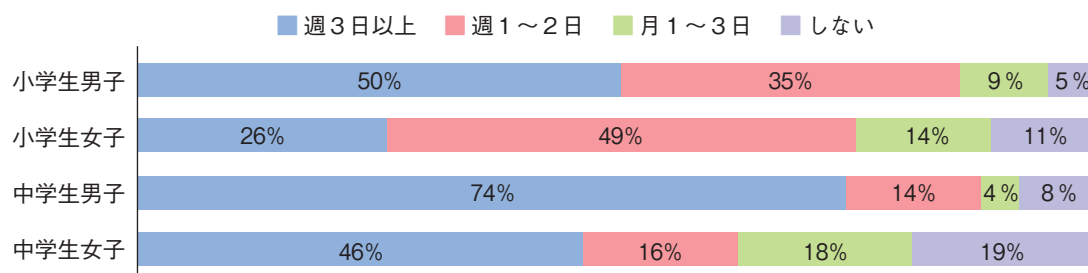


※2 中学生の女子は文化部で活動する生徒が男子に比べ多くいるため、運動部活動の加入率が低くなっていく傾向がある。

※3 1990年代には人気アイドルの影響で小学校5年女子の平均体重が500g減少した。

※4 子どもの発達段階や精神面を考慮し、無理なく楽しく体を動かすことにより「動ける体」をつくるとともに脳を活性化させ「心」の成長を促していくというもの。

下諏訪町小中学生運動実施状況



施策の展開

☆運動プログラムの普及

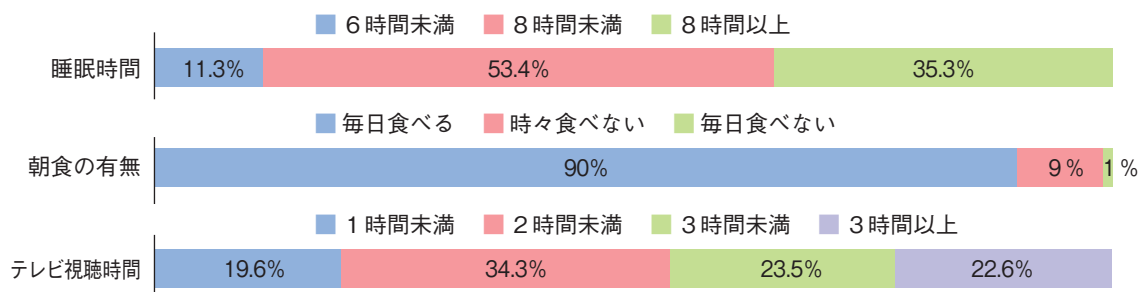
子育てふれあいセンターぽけっと、保育園、小学校で成長段階にあった運動プログラムを継続して行い、子どもが運動の楽しさを感じ苦手の克服ができる環境づくりを推進する。

☆幼児期からの運動遊びの普及促進など、体を動かすことの楽しさを感じられる環境づくりの促進

平成24年度に長野県から「キッズ運動遊びどこでもゼミナール※5」のモデル都市に指定された。今後も県教育委員会と協力して、運動プログラムの普及に努める。

☆子どもの生活習慣の改善

生活習慣（運動時間、睡眠時間、一日三食等）が乱れると体力の低下だけでなく、学力の低下にもつながることが指摘される。近年のインターネットの発達により、自宅にいながら他者とゲームを楽しむため、ゲームに没頭する時間が多い子どもが増えている。子どもの生活習慣を把握し、学校や保健センターと協力して改善していく。



キッズ運動遊びどこでもゼミナール



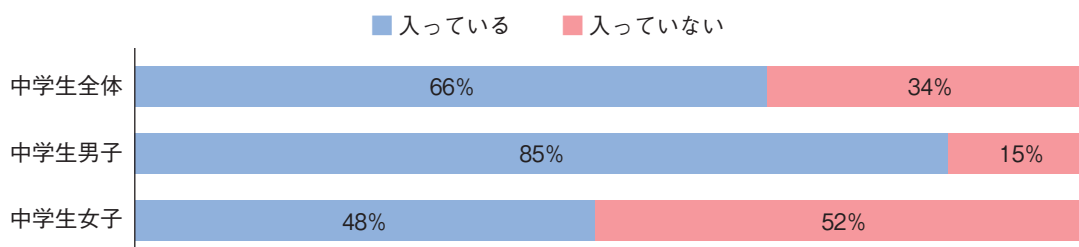
※5 県教育委員会が開発した長野県版「運動プログラム」の普及を目指し、地域の指導者、小学校教員、保育士、児童クラブ指導員、保護者を対象に実技講習会と運動あそび教室を開催。

2 学校の体育に関する活動の充実

現状・課題

- 体力向上の意識強化と同時に子どもが運動の楽しさを感じ、運動嫌いをなくす体育の授業が必要である。
- 小学校の体育(特に球技)は男子が主導権をにぎり、女子が参加しづらい傾向にある。その結果、中学校入学後に運動が苦手になるケースがある。
- 中学校の部活動に関しては運動を目的とするクラブ数は22あり、生徒の66%が運動部に所属している。
- 中学生女子は文化部への加入率が高いため、運動部への加入率が低い。
- 障がいがある子どもとない子どもとの運動・スポーツによる交流が少ない傾向にある。

運動部所属状況



施策の展開

☆生涯にわたり、運動・スポーツに親しむ体育の授業や部活動の運営

児童、生徒の運動経験の二極化、運動能力の低下によって子どもの体力は低下傾向にある。また、うまく自己表現することができず、コミュニケーションを苦手とする子どもも目立ってきている。そのような課題がある現状において、体育の授業や部活動は今まで以上に重要な役割を担うものとなってきている。それらの活動を通じて、運動・スポーツの基礎並びに他者とのコミュニケーションの基礎を築き、心と体の成長を促し、体を動かす楽しさが感じられるように運動・スポーツの技能や知識を身につけるだけでなく、生涯にわたって運動・スポーツに親しめる授業や部活動の運営が必要である。

①外部指導者の積極的な活用

町では、多くの方に外部指導者としてご協力をいただいている。

外部指導者を活用することで、より質の高い授業や部活動が運営できる。また、体育の指導が苦手、もしくは専門外である先生の負担の軽減につながることを期待される。

運動嫌いをなくす体育の授業や、魅力ある部活動の運営につなげる。



下諏訪中学校ソフトテニス部で指導をする外部指導者

②学校の枠を超えた授業の運営

小学校の先生が中学生に体育の授業を行い、中学校の先生が小学生に体育の授業を行う学校の枠を超えた授業「出前授業※6」などを行うことで、先生同士の情報の共有化や子ども達の運動・スポーツを通じた成長を図る。

また、中学校で行っているクラスマッチを合同で開催し、スポーツによる交流を推進する。



下諏訪町ジュニア陸上競技大会
町とNPO体育協会が主催で、町内の4校に通う児童、生徒を対象に行う陸上大会。

③自然体験型教育の推進

町には地域性の高いスポーツ施設があり、県内唯一のボート場「下諏訪町漕艇場」と、天然のスケートリンク「秋宮スケートリンク」を管理、運営している。

下諏訪中学校には漕艇場を活用した県内唯一の中学校ボート部が存在し、秋宮スケートリンクでは町内小学校のスケート授業が行われている。

町教育委員会と学校が、地域の自然環境を活かしたスポーツの普及に取り組み、町内でしかできない体育の授業や部活動を推進していく。



下諏訪町漕艇場で行われるボート大会

※6 上田市では、平成24年11月に真田中学校の先生が、傍陽小学校に赴き算数の授業を行った。児童は中学校の授業の雰囲気を感じながら、入学への期待をふくらませる時間となり、先生は授業を行うことで子どもの様子や授業のあり方を学び合う良い機会となった。（傍陽小学校ホームページより）

④スポーツ推進委員によるニュースポーツの普及

スポーツ推進委員(平成23年度に体育指導員から名称が変更)の主な活動のなかにニュースポーツの普及がある。

ニュースポーツは、障がいの有無を問わず、誰でも気軽に参加できる新しいスポーツであり、スポーツでの交流を深める上で、非常に有効的な手段である。

スポーツ推進委員が子どもにニュースポーツを普及させ、障がいのある子どもとスポーツによる交流を推進していく。



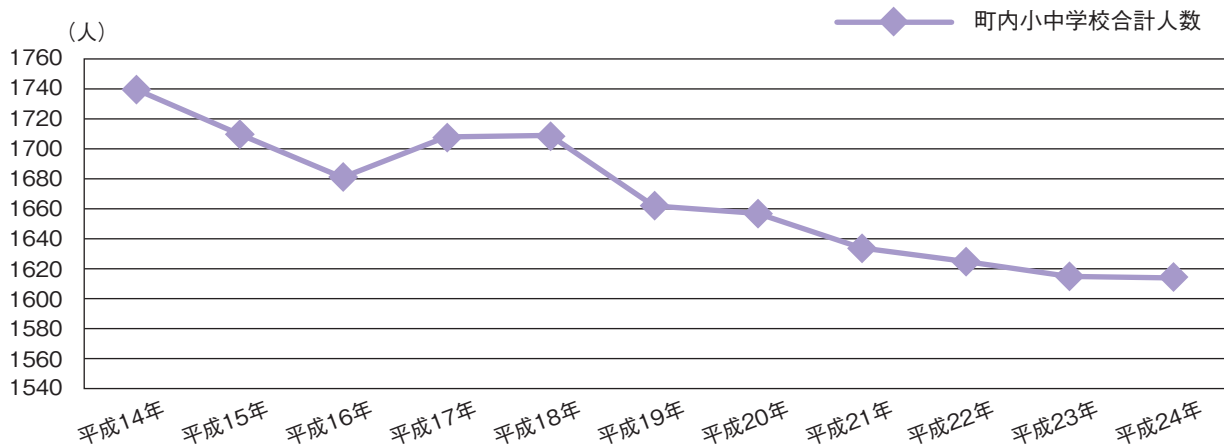
チャンスボール

下諏訪町スポーツ推進委員が「いつでも、どこでも、誰でも」をモットーに考案したニュースポーツ。毎年、下諏訪体育館で大会が開催されている。

3 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

現状・課題

- 少子化にともなうスポーツクラブのチーム数減少。
- 指導者の確保が難しい。
- 子どもの運動・スポーツ活動は学習面より軽視されやすい。一方で、過度な活動により学習や健康に影響が出ている子どももいる。
- 学校、体育協会、スポーツ推進委員会、スポーツ団体同士の交流や活動等、情報の共有が出来ていない。



施策の展開

☆スポーツ推進審議会での審議

近年の複雑な社会背景等で、子どものスポーツ環境は変化している。そのため、子どもの運動・スポーツ機会の充実や体力向上などの課題が多く見られる。それらの課題に対しスポーツ推進審議会では、調査や審議を行い、問題の解決を図る。



5年後の
目指す姿

運動・スポーツをする元気で健康な子どもの増加

具体的な目標

指 標 名	現 状	目 標	備 考
体力合計点	46.45点	54点台	※体力合計点とは、体力測定各種目の合計得点。目標の54点台は、全国平均の10位程度の数値。(小学校5年生、中学校2年生の男女別の得点を平均する。)

基本目標2

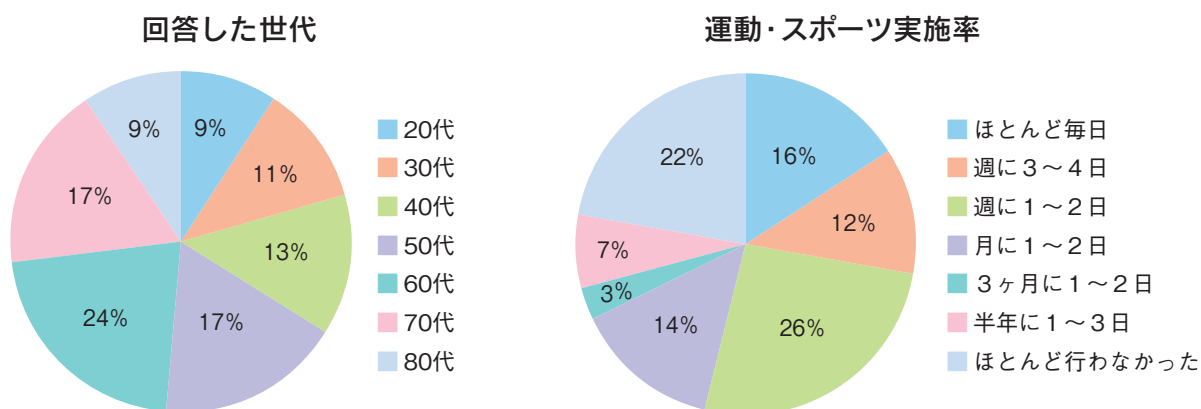
町民の運動・スポーツ参加機会の充実や環境の整備

1 ライフステージに応じた運動・スポーツ活動等の推進

現状・課題

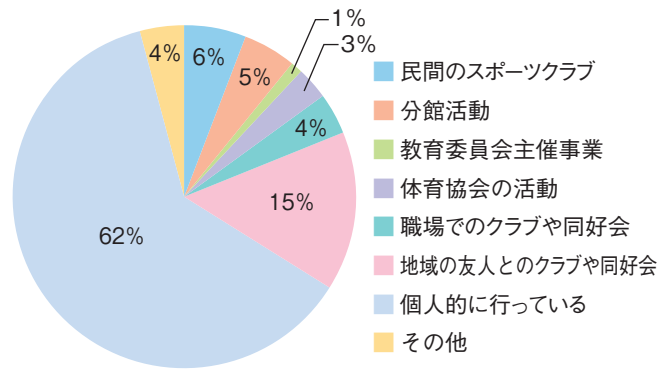
- 町内20歳以上の男女の運動・スポーツ実施率(週1回以上運動・スポーツを行う人の割合)が50%※7を超えている。
- 運動・スポーツを行う理由として「健康・体力づくりのため」と回答する人が多く、健康づくりや体力づくりを目的としたイベントのニーズも高い。
- 個人で楽しめるアウトドアスポーツや、気軽に行える運動をしている人が多い一方で、「一緒にスポーツが出来る仲間が欲しい」「みんなで行えるスポーツイベントを開催して欲しい」など、運動・スポーツを通じた仲間づくりの意識が高い。
- 全体的にスポーツボランティアの意識が低い。
- 生活習慣病予防の観点から、壮年期からの運動習慣は必要である。

町民アンケート結果

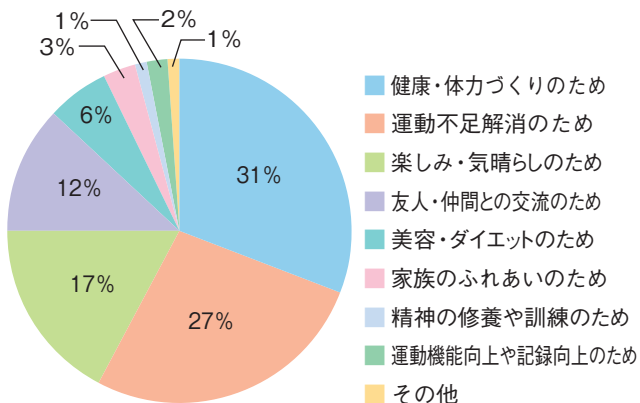


※7 国の運動・スポーツ実施率の平均は45.3%(平成21年)、長野県は48.3%(平成24年)である。

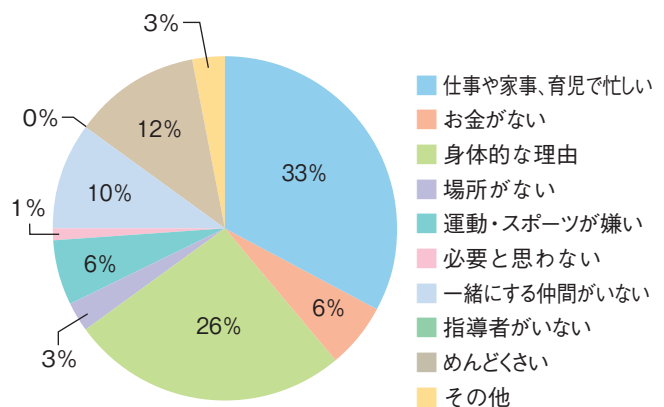
どのような環境で運動・スポーツを行っているか



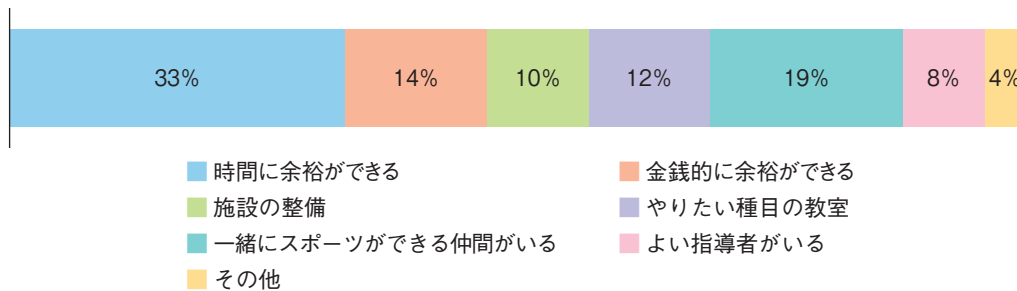
運動・スポーツをする理由



運動・スポーツをしない、できない理由



今後、どのような条件が整えば運動・スポーツをする機会が増えますか。



施策の展開

☆運動・スポーツをしない層へのアプローチ

アンケートの結果を基に「気軽に行える運動・スポーツ」「みんなで出来るイベント」「健康・体力づくり」をポイントにアプローチを行っていく。

①気軽に行える運動・スポーツ

諏訪湖周辺のジョギングロード・サイクリングロード、高浜運動公園マレットゴルフ場といった気軽に運動できる施設を活用し、アプローチを行う。



諏訪湖周辺のジョギングロードは休日になると多くの人が利用する。

②みんなで出来るイベント

平成24年度から教育委員会と保健センターが合同で「下諏訪ギネスにチャレンジ&体年齢がわかる体力チェックコーナー」を開催した。幅広い年代を対象としてイベントを企画したため、子どもから祖父母まで親子3世代で足を運んでくれた家族もいた。今後も子どもからお年寄りまでが参加できるイベントを開催する。



下諏訪ギネスにチャレンジ
全6種目の下諏訪町独自で考案したギネスの更新をねらうイベント。

③健康・体力づくり

運動・スポーツをする理由として、31%の方が健康・体力づくりのため、27%の方が運動不足解消のためと回答し、健康志向の高さがうかがえる。

平成24年度現在、教育委員会主催の体力づくり教室（ニュースポーツ・太極拳・バドミントン）や下諏訪町公民館の講座（太極拳・低カロリーレシピ講座・エアロビクス・フラダンス・ボクササイズ※8）保健センターの事業（インターバル速歩・栄養教室）などがある。今後も情報交換をして、町民のニーズにあった教室・講座・事業を展開していく。



低カロリーレシピ講座
1食500キロカロリー台で栄養バランスのとれたレシピを学ぶ講座。



インターバル速歩講座
「ゆっくり歩き」「はや歩き」を交互に繰り返すトレーニング方法。筋力・体力の維持向上が期待できる。

※8 健康増進や持久力増強のために行う、ボクシングの練習メニューを取り入れた運動のこと。

☆スポーツイベントのスタッフ募集

スポーツイベントには、多くのスタッフの協力が必要である。現在、当町におけるスポーツボランティアの意識は高くなく、スタッフ不足により開催が危ぶまれるスポーツイベントも出てきている。

スポーツボランティアを通じた活動は、人とのつながりを促し、地域の人間関係の希薄化の防止にもつながり、将来的に地域の活性化やまちづくりなどにも期待できる。町ホームページや体育館窓口にてスポーツボランティアの周知に力を入れ、積極的に募集を行っていく。

2 地域スポーツ施設の充実

現状・課題

- 町のスポーツ施設は、昭和53年に行われた「やまびこ国体」の時に整備された施設が多く、老朽化しているものも見られるため、利用者に安全で快適に使用していただけるような維持や管理が必要。
- 社会体育施設に加え、学校の体育館や校庭も平日の夜間や休日は全面解放しているが、休日は大会が開催され、平日の夜間は各種スポーツ教室等が行われるなど、予約が取りにくい状況にある。一方、社会体育施設においては、平日の昼間はほとんど予約が入らない状況にある。
- 運動・スポーツを通して健康づくりが出来る場を求める声が多い。

施策の展開

☆誰もが安全で快適に使用できる施設の整備

今回行われた町民アンケートの結果では、今ある施設のリフォームを望む回答が多く見られた。予算の範囲内で障がい者の方でも安心して使えるバリアフリー化を含めた施設の改修を進める。

☆平日の利用促進や休日利用方法の見直し

気軽に参加できるスポーツイベントの企画や平日に無料開放日を行うなど、平日昼間の利用促進、休日にスポーツを気軽にできるよう体育施設の利用方法を見直す。

☆健康づくりを目的とした施設の検討

町民アンケートにおいて、健康・体力づくりを目的として運動・スポーツを行っているという回答が多く見られた。今後、下諏訪町の特色である温泉や諏訪湖周辺のジョギングロード等を活用した健康づくりの場を検討していく。

3 スポーツにおける安全の確保

現状・課題

- 体育施設、器具類の適切な管理、スポーツ事故の際の適切な対応が管理者や指導者に求められる。
- AED設置場所の認知度が低い。

施策の展開

☆スポーツ中の事故の防止について

スポーツ中の事故について各団体と協力して情報の共有化を図り、その場に応じた対応が出来るようにする。また、各団体にスポーツ安全保険等の加入促進を行う。

☆AEDの普及や認知度の向上

広域消防と連携し、各スポーツ団体にAED講習会の開催を促し、社会体育施設の適切な箇所に設置していきたい。また、公民館と連携し分館活動のスポーツイベントの際にAEDの設置場所について紹介し、地域住民の認知度向上を図る。

5年後の
目指す姿

**町民誰もが運動・スポーツに関心をもち
地域に根ざした生涯スポーツ社会の実現**

具体的な目標

目 標	現 状
週1回以上運動・スポーツを行う人を65%(3人に2人)に引き上げる	54%
週3回以上運動・スポーツを行う人を35%(3人に1人)に引き上げる	28%
1年に1度も運動・スポーツを行わない人を10%以下にする。	22%

基本目標3

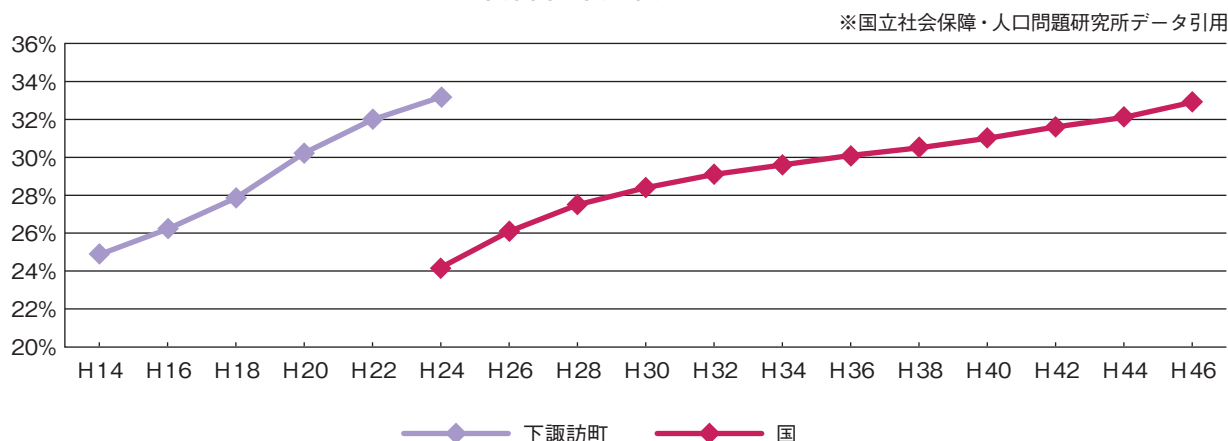
運動・スポーツ施策による豊かな高齢社会の実現

1 運動・スポーツによる健康な社会

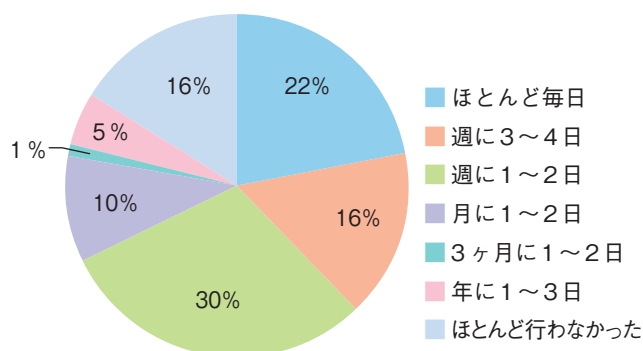
現状・課題

- 町の高齢化率は平成24年10月1日現在32%であり、諏訪地方で一番高い水準にある。日本全体で高齢化率が32%を超えるのはおよそ平成46年頃と予想され、全国に比べ20年程度高齢化率が進んでいる。
- 町内60歳以上の男女の運動・スポーツ実施率(週1回以上運動・スポーツを行う人の割合)は約70%で非常に高い。
- 町内60歳以上の男女の運動・スポーツを行っている層の目的は「健康・体力づくり」「運動不足の解消」「気晴らし」など心身の健康面に対しての意識が高い。行っていない層は「身体的な理由」「めんどくさい」「高齢だから運動は無理」などの理由で、運動・スポーツや健康面に対しての意識が低い。
- 疾病予防、介護予防の観点から高齢者の運動・スポーツの実施は必要不可欠である。

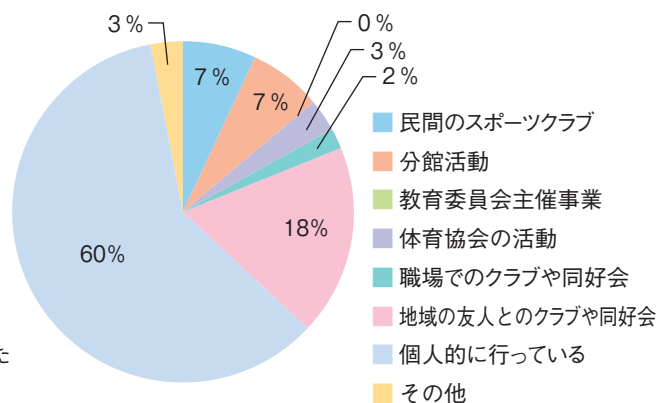
高齢化率比較グラフ



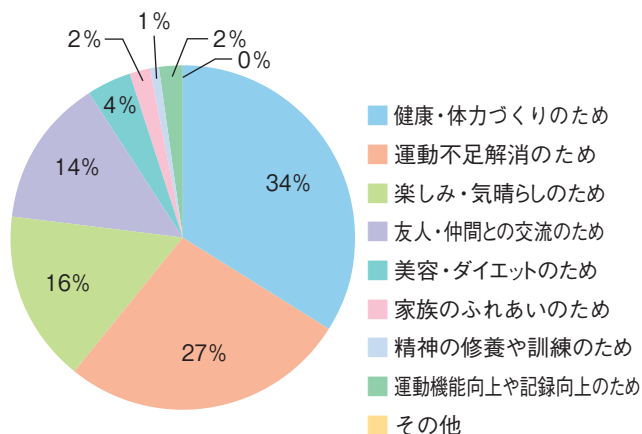
60歳以上 運動・スポーツ実施率



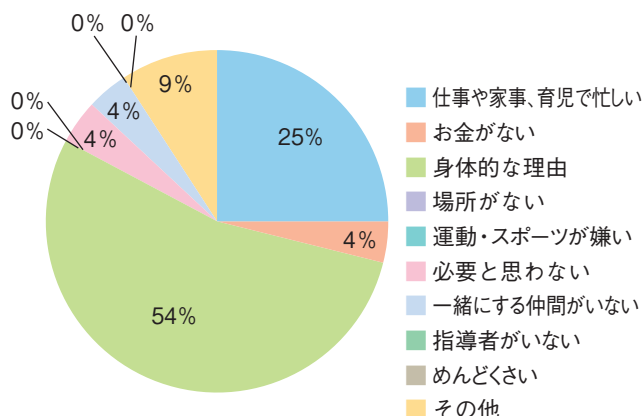
60歳以上 どのような環境で運動・スポーツを行っているか



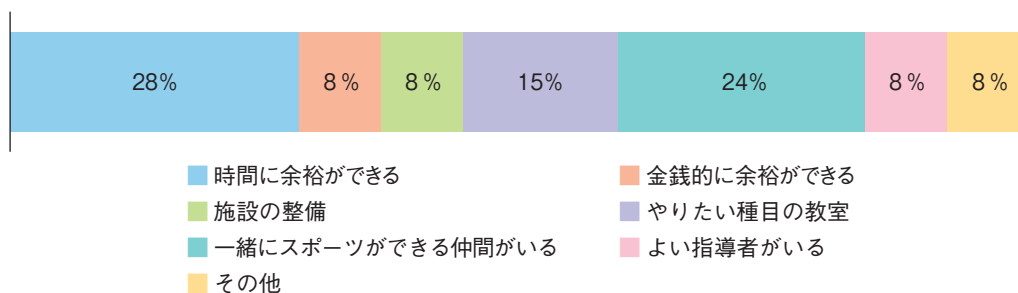
60歳以上 運動・スポーツをする理由



60歳以上 運動・スポーツをしない、できない理由



今後、どのような条件が整えば運動・スポーツをする機会が増えますか。



施策の展開

☆運動・スポーツで介護予防

平成22年の都道府県別の平均寿命は、長野県が男女ともに全国1位※9であり、長寿の県として広く知られることとなった。また、高齢者の県民1人あたりの医療費も比較的低く、介護を必要とする方は少ないといえる。

その現状を表す「ピンピンコロリ」という言葉がある。これは佐久市を中心に広がった「元気で長生きし、病まずに逝く」という意味の言葉であり、県内の高齢者の健康への関心の高さを表している。

高い運動・スポーツ実施率や健康志向などを介護予防につなげ、高齢者が地域でいつまでも長く活躍できる地域社会の推進を行う。

※9 厚生労働省の発表(平成25年2月28日)

☆高い運動・スポーツ実施率の維持、しない層へのアプローチ

当町では、健康を目的とした人には社会福祉協議会の「いきいき健康教室」や、保健センターの「インターバル速歩講座」を開催しており、楽しみを目的とした人には公民館の講座やスポーツ推進委員のニュースポーツ出前講座を開講している。今後も各団体と連携して高齢者のニーズにあった講座や教室を開講し、高い運動・スポーツ実施率の維持につなげる。また、運動・スポーツをしない層の特徴として運動に対する意欲が低く、健康に対する意識も低い傾向にある。幅広い教室や講座を活かし、様々な視点からのアプローチをかけ意識改善や意欲の向上に努める。

2 運動・スポーツで高齢者の仲間づくり・生きがいの推進

現状・課題

- 運動・スポーツ実施率が非常に高い。
- 高齢者の地域からの孤立、孤独死などが全国的な社会問題とされている。

施策の展開

☆無理なく楽しく続けられる環境の整備

①仲間づくりや生きがいを目的

町には、高齢者で構成され運営している自主スポーツ団体が存在する。高齢者が地域でつながりや生きがいをもって、健康に暮らしていくためには、仲間づくりが重要な要素となる。高齢者がスポーツを通じて仲間づくりができることで、地域とのつながりや生きがいのひとつになるように、高齢者の運動・スポーツ団体を支援する。



健康の維持、増進のために「健康体操」を行っている団体。

②1人でも行える運動・スポーツの普及

団体の欠点として、人数の維持が難しいことや役員のなり手不足などがある。町民アンケートの中では62%の方が運動・スポーツを個人的に行っていると回答しており、1人で行える運動・スポーツはニーズが高い。高齢者が1人でも運動・スポーツができるということで、諏訪湖周辺のジョギングロードや高浜運動公園マレットゴルフ場は人気が高く利用も多い。高齢者の運動・スポーツ団体を支援していくと同時に気軽に出来る運動・スポーツの普及にも努める。



高浜運動公園マレットゴルフ場

③ラジオ体操の普及

町ではラジオ体操を昭和40年代初めより、約半世紀にわたり行政主導の下、実施しており、全国的に見てもラジオ体操の普及を行政が行っているのはめずらしい。現在では主に町民の健康づくりを目的とし、子どもから高齢者までの幅広い年齢層から支持されている。

平成24年に全国レベルの講習会及び資格認定試験を下諏訪体育館にて行った。今後もラジオ体操を「下諏訪町の文化」ととらえ、普及や推進に努め「ラジオ体操のまち」として全国に発信をしていく。



NPO全国ラジオ体操連盟主催
「ラジオ体操秋季講習会」

5年後の
目指す姿

**高齢者がいつまでも健康で
生きがいをもち、地域で活躍するまち**

具体的な目標

- 1 高齢者の高い運動・スポーツ実施率を維持する。
- 2 「ラジオ体操のまち」として、夏季巡回ラジオ体操を開催する。

多方面にわたるスポーツの果たす役割の活用

1 スポーツによる人間関係の活性化

現状・課題

- 近所づきあい、人間関係の希薄化が社会問題となっている。
- 生涯スポーツ団体は増加傾向である。

施策の展開

☆スポーツ活動による新しい人間関係の形成

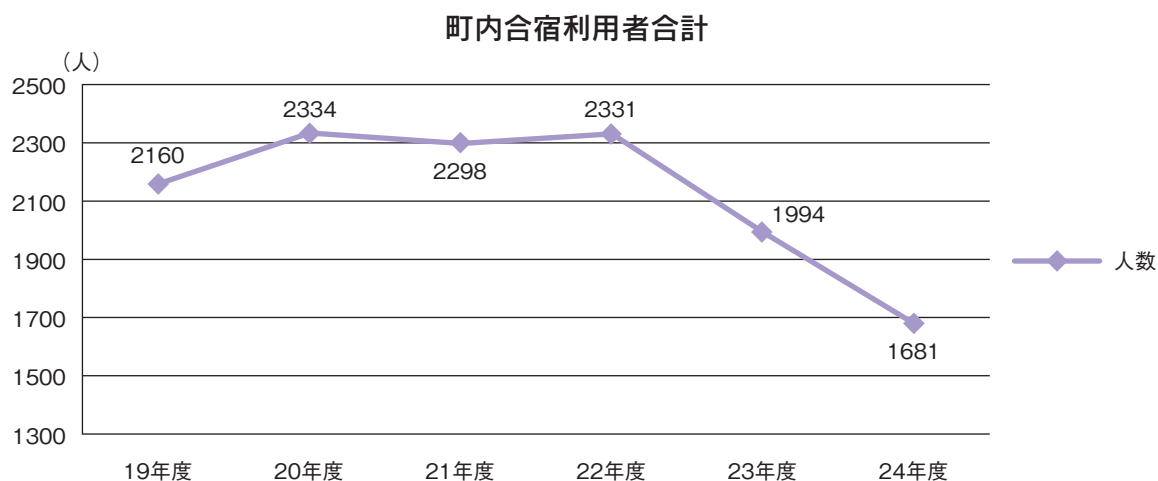
若者の地域からの孤立や高齢者の孤独死など、人間関係の希薄化が要因と思われる問題に対し、既存の生涯スポーツ団体や新設される団体の情報を町民に提供する。それらの活動のなかで、よりよい人間関係を構築し、様々な問題の解決を図るとともに、より密接な地域社会の形成に努めていく。

2 「合宿のまち」の再生

現状・課題

- 夏季の学生のスポーツ合宿は最盛期で約1万人の利用があったが、現在は2千人程度に落ち込んでいる。
- 最盛期当時は、町内の企業の体育施設も貸し出されていたが、現在は社会体育施設と学校体育施設のみで、合宿シーズンの受け入れ体制が整わない。
- スポーツと地域の観光資源を結びつけ、イベント等を企画・開催し観光客を呼び込む「スポーツツーリズム^{※10}」の動きが観光庁で高まっている。
- 町内には下諏訪町漕艇場や秋宮スケートリンクなどの地域性の高いスポーツ施設が存在する。

※10 スポーツツーリズムの代表例は「東京マラソン」である。東京の名所をマラソンで巡り、日本各地からランナーが参加する。大会の規模、参加者数ともに世界最高峰のマラソン大会である。



施策の展開

☆地域性の高いスポーツ施設を活用したスポーツツーリズム

町には諏訪湖を活用した下諏訪町漕艇場、冬場の寒さを利用した秋宮スケートリンクなど地域性を活かしたスポーツ施設が存在する。それらの施設を使用し、スポーツを地域の観光資源とした特色あるまちづくりを行う。

☆合宿における体育施設の受け入れ体制の整備

現在、合宿の依頼は多くきているが、体育施設が希望通り受け入れができない状況がある。今後、近隣市町村との連携を行い、合宿における体育施設の情報の共有ができるような新しいシステムの構築を模索していく。

☆各団体と連携した町内のスポーツ合宿のPR

産業振興課や観光振興局、諏訪6市町村と連携し、様々なPRを行う。また、民間ツアー会社とも連携を行い、従来の体育会のスポーツ合宿だけではなく、レクリエーションを目的とした大学のサークル等の合宿の誘致にも取り組む。

5年後の
目指す姿

町内のスポーツ財産を活かした元気なまち

具体的な目標

従来の夏季合宿利用者に加え、スポーツツーリズムの発想を活かし、運動・スポーツを目的として町内に宿泊する人を年間3千人程度誘致する。

第4章 推進体制の整備

■町民の理解と協力による推進

「生涯一町民一スポーツ」の基本理念に基づき、年齢や性別、障がいの有無を問わず、町民が日常的にスポーツに親しめるような環境づくりをしていくためには、行政のみならず関係機関・団体と連携して推進していく必要がある。

1 行政・団体

(1)町・町教育委員会

基本理念を実現するため、地域の資源ともいえる指導者や施設を有効活用するとともに、町及び町教育委員会の関係部局や関係団体との連携調整を強化し、協働体制による施策を展開する。

(2)保育園・小学校・中学校

子どもの運動嫌いを克服し、運動を行う機会を増加させるとともに、生活習慣の指導など、幅広い視点から子どもの体力の向上に導く。

また、運動・スポーツを習慣化させ生涯スポーツに親しむ基礎を作る。

(3)スポーツ推進委員

町民のニーズに合ったスポーツの推進のため、行政と町民とのパイプ役になって、連絡・調整を行い、スポーツイベント等の企画、運営を行う。また、ニュースポーツやレクダンス等で運動・スポーツに親しみのない人への動機付けや、楽しみ方の啓発を行うことで本計画の施策の実現を目指す。

(4)自治会・公民館・育成会・PTA

地域のスポーツ交流会や運動会などのスポーツイベントの企画、運営を行い、町民のスポーツに親しめる場の提供を行う。また、その活動を通じ地域社会の活性化、青少年の健全育成などの支援を行う。

2 町民・関係機関

(1) 体育協会・スポーツ団体

町民の健康・体力増進と明るい地域社会の実現を目指し、スポーツ大会やスポーツ教室の開催を通じて、競技力の向上を目指す。また、スポーツ情報の提供や指導者の派遣など、町民がスポーツに親しめる環境を整える。

競技スポーツから生涯スポーツの核として体育協会が中心となり、スポーツ人口の拡大やスポーツの習慣化につながる活動を行う。

(2) 社会福祉協議会

けんこう増進教室やいきいき健康教室等の活動を通じて、町民の健康意識を高め豊かな高齢社会の実現を目指す。活動のなかで、運動をしない高齢者の運動・スポーツに対する意識改善のアプローチをかけていく。

(3) 医療機関・スポーツ医科学専門機関等

専門分野での競技者の支援や、理論に基づいた健康・体力づくりの伝達・普及に向けた協力・支援が期待される。また、障がい者がスポーツに参加できる環境づくりにも協力して取り組む。

(4) 下諏訪温泉旅館組合 合宿部会

町内で行われる夏季合宿の斡旋をする。また、産業振興課や観光振興局、民間ツアー会社と連携して町内の観光事業の活性化を行う。

■計画の検証・評価

計画を推進するため、その内容や達成目標について、下諏訪町スポーツ推進審議会において検証や評価を行い、必要に応じ施策や事業の達成目標を見直し、改善を図っていく必要がある。

町民や関係スポーツ団体などの視点に立った計画の推進となるように評価結果を公表するなど、情報の共有化を図っていく。

第5章 体系表



生涯一町民一スポーツ

資料編

1 計画策定の日程

年	月 日	会 議 等	内 容
平成24年	4月 1日	スポーツ推進審議会 設置条例の施行	
	5月21日	スポーツ推進審議会 委員の公募の開始	町ホームページにて公募
	7月23日	第1回審議会	委嘱書の交付 正副会長の選任 諮問 推進計画の説明
	8月30日	第2回審議会	町民アンケートの審議
	9月20日	町民アンケート実施	町内の20歳以上500人を対象とした アンケートの実施
	12月21日	第3回審議会	骨子案の審議
平成25年	2月15日	第4回審議会	推進計画(案)の審議
	2月25日	意見募集 パブリックコメント	町内関係機関からの意見聴取 町ホームページにて町民からの意見 聴取
	3月15日	第5回審議会	推進計画(案)の承認
	3月15日	答申	推進計画を答申

2 審議会委員名簿

役 職	氏 名	所 属 等
会 長	高 木 重 由	下諏訪町スポーツ推進委員会 会長
副 会 長	高 木 常 吉	NPO下諏訪町体育協会 会長
委 員	石 川 智 之	理学療法士 ESC.Bullets 監督(車いすサッカーチーム)
	小 口 敏	下諏訪温泉旅館組合 合宿部会長
	実 原 基 成	下諏訪社中学校教諭
	中 村 一 也	学識経験者
	宮 腰 祐 吉	NPO体育協会 副会長 NPO体育協会ゲートボール部長
	山 崎 慎 一	下諏訪町スポーツ少年団 代表
	矢満田 亜 季	下諏訪南小学校教諭
	吉 澤 正 彦	下諏訪町スポーツ推進委員会 副会長

